

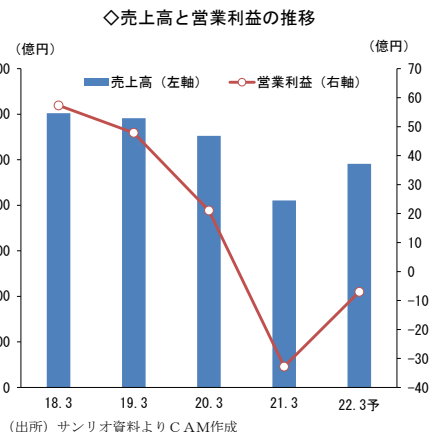
企業ニュース サンリオ

(東証1部: 8136) <http://www.sanrio.co.jp/corporate/ir/>

作成者: 高見澤晶子

構造改革により再成長を目指す

『ハローキティ』をはじめとしたキャラクター商品の企画・販売、テーマパークの運営、キャラクターのライセンスビジネスなどを手掛ける。21. 3期の地域別売上高構成比は日本77%、欧州3%、北米5%、南米1%、アジア14%。国内は物販収入、海外はライセンス収入が中心。2020年7月に1960年の創業以来初となる社長交代、創業者の孫に当たる辻朋邦氏が社長に就任した。2021~2023年度の中期経営計画では最終年度に売上高530億円、営業利益30億円を目指す。この3年間は再成長に向けた足場固めと反転の期間と位置づけられており、経営体制の刷新など組織風土改革のほか、従来課題とされていた国内物販の収益性向上、米国事業の赤字体質改善に取り組む。



第1四半期はコロナ禍からの回復で大幅増収増益

22. 3期・第1四半期 (4-6月) の連結業績は、売上高が108億円、前年同期比48%増、営業利益が6,000万円の赤字、同11億円増 (前年同期は12億円の赤字)。営業利益は上期計画 (11億円の赤字) を上回るペースで改善しており、好印象。テーマパークの営業制限の影響は残ったが、国内外の物販、ライセンス収入が大幅に伸長した。なお、当期利益は物流センターの売却益38億円を計上したため黒字転換となった。

22. 3期の通期会社計画は、売上高が491億円、前期比20%増、営業利益が7億円の赤字、同26億円増 (前期は33億円の赤字)。第1四半期は好調なスタートだったとみられるが、会社はコロナ禍の影響や中期経営計画の進捗を勘案し計画を据え置いた。下期以降の国内外の経済正常化に伴う段階的な業績回復を見込んでいる。現行の中期経営計画は再成長に向けた構造改革や種まきがメインであるため今期は費用が先行するとみられるが、第1四半期の順調な売上回復が続けば計画上振れ、営業利益の黒字転換の可能性もあろう。

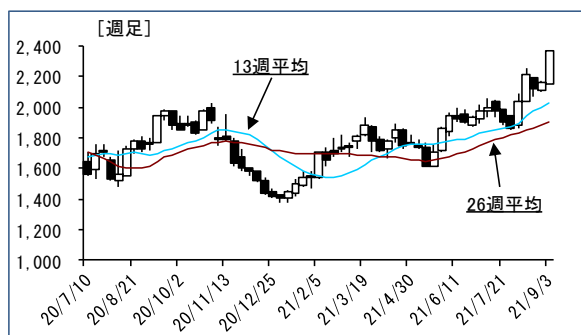
[株価動向・投資判断]

実行力のある組織への変革、それに伴う国内物販や米国事業の構造改革の遂行により、収益拡大が期待できよう。

<8136 サンリオ 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期利益 | 1株利益 | 1株配当 |
|--------|--------------|-------------|-------------|------------|-------|--------|
| | 百万円 (伸び率) | 百万円 (伸び率) | 百万円 (伸び率) | 百万円 (伸び率) | 円 | 円 |
| 20.3 | 55,261 (▲7) | 2,106 (▲56) | 3,274 (▲44) | 191 (▲95) | 2.3 | 記35.00 |
| 21.3 | 41,053 (▲26) | ▲3,280 (—) | ▲1,731 (—) | ▲3,960 (—) | ▲47.9 | 0.00 |
| 22.3 予 | 49,100 (20) | ▲700 (—) | ▲400 (—) | 2,100 (—) | 26.1 | 16.00 |



[主要株価指標]

(売買単位: 100株)

| | |
|-------------------|------------------|
| 株価 (2021/9/3) | 2,365 円 |
| 年初来高値 (高値日) | 2,374 円 (21/9/3) |
| 同 安値 (安値日) | 1,378 円 (21/1/6) |
| 予想 P E R (22.3 予) | 90.7 倍 |
| 1株株主資本 (PBR算出用) | 505.6 円 |
| P B R | 4.68 倍 |
| 予想配当利回り | 0.68 % |
| (1株当たり配当金年16.00円) | |
| R O E (21.3) | ▲ 9.5 % |
| 発行済み株式数 | 8,907 万株 |